

2012年11月8日 No.2

『葛の花エキス™』の脂肪肝の発症抑制作用を確認 —脂肪肝の二大原因である高脂肪食とアルコール摂取時の効果—

Nalelu 合同会社（本社：東京都、代表社員：小俣貫太）は、株式会社東洋新薬との共同研究により、高脂肪食とアルコールを同時摂取した際に発症する脂肪肝を、『葛の花エキス™』が抑制することを確認し、第19回日本未病システム学会学術総会において発表いたしました。

■ 葛の花エキス™とは

葛はマメ科のつる性植物で、『葛の花エキス™』は、葛の花部から抽出して製造される機能性食品素材です。

今回当社は、株式会社東洋新薬との共同研究において、『葛の花エキス™』の高脂肪食およびアルコール同時摂取における脂肪肝抑制作用を *in vivo* で確認し、第19回日本未病システム学会学術総会（2012年10月27日（土）～28日（日）、石川・金沢勤労者プラザ）において発表いたしました。



■ 研究のポイント

脂肪肝とは、肝臓に中性脂肪が蓄積した状態のことをいい、脂肪肝を発症する要因として主に高脂肪食やアルコールの過剰摂取が二大原因として知られています。今回我々は、高脂肪食及びアルコールそれぞれ単独ではなく、2つの要因を同時に負荷した場合の葛の花エキス™の脂肪肝抑制作用の有効性について検証することといたしました。

■ 研究概要

マウスに5%葛の花エキス™を混餌した高脂肪食を29日間摂取させ、試験開始から27日目より29日までアルコールを強制的に経口投与させました（HF+5%PFE /EtOH 群）。29日目に解剖を実施し、内臓脂肪総重量および血中 GOT〔注②〕濃度を測定、さらに肝臓の状態を記録しました。なお対照として、葛の花エキス™を混餌していない高脂肪食とアルコール負荷群（HF/EtOH 群）を設けました。

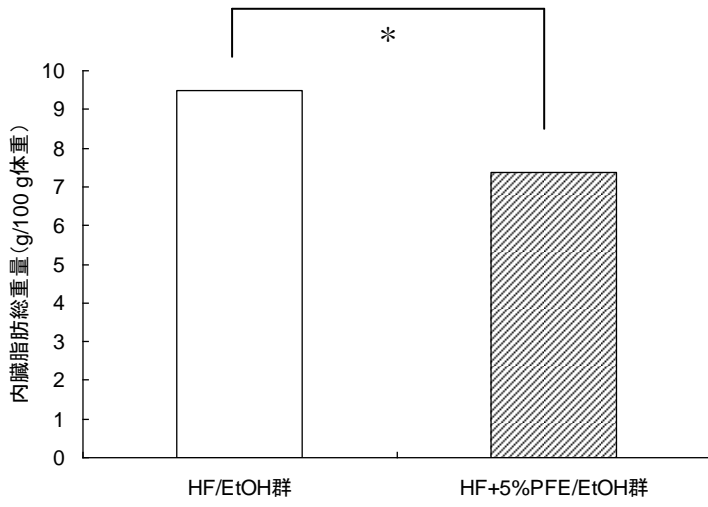
その結果、HF+5%PFE /EtOH 群は HF/EtOH 群と比較して、内臓脂肪総重量および血中 GOT 濃度の有意な低下がみられました。また肝臓解剖所見により脂肪肝の改善が確認されました。

〔注〕 GOT

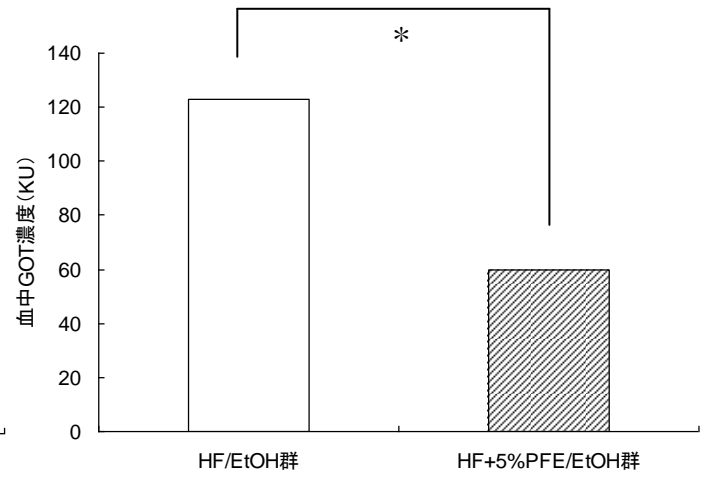
グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼの略。細胞が破壊されると血液中に放出され高値になります。アルコール性肝炎や脂肪肝で高値を示すことが知られています。

これらのことから、葛の花エキス™は高脂肪食およびアルコール同時摂取における脂肪肝抑制作用に有用であることが示唆されました。今後、忘年会などで暴飲・暴食になりがちな季節に向けた商品開発を目指します。

内臓脂肪総重量



血中 GOT 濃度



*: 対照群 (HF/EtOH 群) に対して $p < 0.05$ で有意差あり